SOPHIA 1913-2023 110TH ANNIVERSARY

上智大学通信

第471号　2023年（令和5年）8月7日発行

編集・発行
上智学院総務局広報グループ
〒102－8554　東京都千代田区紀尾井町7－1
電話：03－3238－3179　FAX：03－3238－3539
www.sophia.ac.jp
[Facebook] www.facebook.com/SophiaUniversity
[Twitter] @SophiaUniv_JP

第19回上智大学国連Weeks

期間中、延べ2000人が参加

6月1日から24日まで、「第19回上智大学国連Weeks June 2023」が開催された。「国連の活動を通じて世界と私たちの未来を考える」をコンセプトに10年目を迎えた今回も、幅広いテーマでシンポジウムなどが行われた。

■NAGASAKIから世界へ「平和を」　被爆医師　永井隆と妻　緑からのメッセージ

3日、原爆で妻を失いながらも献身的に被爆者救済に当たった医師の永井隆とその妻である緑のメッセージを現代に伝え、平和と希望ある世界を築くための可能性を探るシンポジウムが開催された。シンポジウムを企画した片山はるひ神学部教授の司会で開会。冒頭、サリ・アガスティン上智学院理事長およびレオ・ボッカルディ駐日ローマ教皇庁大使が挨拶に立ち、シンポジウムへの期待を述べた。

はじめに、イタリアからオンラインでパウラ・マレンコ氏が登壇。マレンコ氏は医師で、イタリア「医学と人間」協会副会長。永井夫妻の列福・列聖を目指すためローマで設立され、長崎大司教区から認められている「永井隆と緑の友の会」の副会長も務めており、数多くの写真を示しながら、永井隆の生涯を紹介した。

4年ぶりに本学を主会場として上南戦を開催。16勝16敗の互角の戦いとなった（記事8面）

続いて、アストラゼネカ日本法人メディカルディレクターで「永井隆と緑の友の会」会長のガブリエレ・ディ・コミテ氏が永井夫妻のさまざまなエピソードを語り、隆は緑との出会いによって人生の真の意味を見出したと述べた。

質問に答えるコミテ氏（左）と片山教授

アメリカからはオンラインでチャド・ディール氏が登壇した。ディール氏はバージニア大学インストラクションデザイナーで日本史家でもある。『この子を残して』『長崎の鐘』などの著作を紹介し、永井隆がそれらを通して長崎の復興に尽力したと語った。

最後に、片山教授が専門のキリスト教文学者の立場から発表。隆が述べている「摂理」という言葉の真の意味について解説し、ヴィクトール・フランクルの『夜と霧』との共通点を示した。そして、「永井隆と緑の友の会」の活動を通して世界中に夫妻のメッセージを伝え、世界平和を共に築いていきたいと訴えた。

4人の発表後の質疑応答の時間では、数多くの質問や感想が寄せられた。平和への思いを共有し、李聖一カトリック・イエズス会センター長の挨拶で閉会した。

■SDGs中間地点での評価と今後の課題

8日、植木安弘グローバル・スタディーズ研究科教授の司会のもと、SDGsの中間評価を行い、今後の課題について議論するシンポジウムが開催された。

はじめに、国連事務次長補で国連訓練調査研究所（UNITAR）総代表であるニキル・セス氏が、オンラインで講演を行った。冒頭、多国間主義の危機に触れ、国際協力の弱体化、貧困や紛争などのグローバルな問題の複雑化を指摘し、SDGsが予定どおり進捗しているのは全体の12％であると報告。具体的な行動指標を挙げながら、持続可能なガバナンスの構築を国レベルで優先順位を上げて再考する必要があると強調した。

学生職員の間森さん（左から2人目）も発表

続いて、国連グローバル・コミュニケーション局アウトリーチ部長のマーヘル・ナセル氏が登壇。目標達成のためには、一般市民の協力が不可欠と指摘し、批判的な視点を持って行動を起こしてほしいと話した。国連広報センター所長の根本かおる氏は、データをもとに日本におけるSDGsの認知度や関心度を解説。「全体的に意識が高まる中、突出して10代の認知度が高い。2030年に向けて若者が主役になっていってほしい」と参加者に語りかけるとともに、私たちの生存を脅かす気候変動の課題に対してアクションを起こすよう呼びかけた。

最後のパネルディスカッションにはナセル氏と根本氏に加えて、森下哲朗グローバル化推進担当副学長と上智学院サステナビリティ推進本部で学生職員として働く間森香奈さん（総グ3）が登壇。本学がより一層社会的責任を果たすため、サステナビリティ強化に取り組む基盤として2021年に同本部を設置したことなど、上智学院のSDGs・サステナビリティ活動について紹介した。

（2面に続く）

2023年度　学業優秀賞

成績優秀者168人に授与

7月7日、6号館101教室で2023年度上智大学学業優秀賞授与式が行われた。この賞は、学業成績などにおいて極めて優秀と認められた2年次から4年次の学部生に授与されるもの。各学部から推薦された168人に賞状と副賞が贈呈された。

受賞者をたたえる　曄道佳明学長

はじめに、曄道佳明学長が「ここにいる皆さんは、学業優秀賞の実績を持って社会の中での役割や納得のいく人生の歩み方を考える段階にいると思います。社会は大きな変革の時期にあり、私たちは期待と不安と混沌の中にいます。上智大学が誇る皆さんは、人間が技術革新に追いつかないのではという現状の不安を人智をもって解決することができるでしょう。それを牽引するリーダーである皆さんが弱者に寄り添うリーダーであり続けることができるのか、皆さんに対する社会の期待はそこにあります」と祝いの言葉を述べた。

謝辞を述べる　山本葉月さん

次に、永野仁美学生センター長が選考経過を報告。続いて、学科ごとに受賞者の名前が読み上げられ、曄道学長から各学科の代表学生に賞状が手渡された。

最後に、受賞者を代表して山本葉月さん（総グ4）が「新型コロナウイルスの影響で前例のない学生生活を経験しましたが、そのような状況だったからこそ、より一層学業に打ち込み、その後の大学生活を通じ新しいことに挑戦し成し遂げたいという強い意志を培うことができました。数多くの地球規模課題に直面する現代において『地球市民』としての自覚を持ち、知識を深め、思考力を養い、行動する力を知ることができたのは、かけがえのない財産です。卒業後も貪欲に学ぶ姿勢を持ち続け、自分自身の成長につなげていきたいです」と謝辞を述べた。

受賞者は次のとおり。

□□□

神学科　飛弾朱星　佐藤菜月　板東秀佳　**哲学科**　大内紅葉　一井彬人　北村昂之　**史学科**　宮ひなた　木村帆花　戸田百香　**国文学科**　駒崎里乃　込山春歌　佐藤百音　**英文学科**　朝日菜月　東田愛未　荒古凜々佳　中島勇斗　熊谷陽奈　金古星空　**ドイツ文学科**　中村桜子　森千江子　吉田裕馬　**フランス文学科**　葛西珠子　井上杏　浜野りか子　新聞学科　水関木ノ芽　加藤さや音　マドレン美澪　片山日夏子　島田遥　平田野乃　野口莉佳　森田華未　都築沙綾　**教育学科**　キム　チェヨン　原田大希　ルー　イフェイ　**心理学科**　中田千紘　川上祐奈　國元菜央　**社会学科**　間瀬咲彩　スタムポン　プーンニャポン　白石美玲　**社会福祉学科**　萩原結衣　金子美紀　粕谷唯　**看護学科**　互優菜　山崎碧衣　内山ちあき　**法律学科**　古川暉彩　上野友倫子　鈴木幸世　松井仁和　曽我部瑚心　井上大暉　山口晏那　井沼太雅　山口レナータ紗帆　**国際関係法学科**　石井健斗　川口真奈　平本琴乃　古川瑛理　伊藤遼　荒木結愛　**地球環境法学科**　上沼拓生　石垣沙良　辺見明依　**経済学科**　庫川実来　宮嶋大佳　岡本龍士　池田真菜　杉本優季　佐藤新太朗　広瀬和奏　小久保慶一郎　小林真子　小暮悠暉　川名陸　出口萌衣子　**経営学科**　秋元美佑　堀之内佑佳　竹内葵　齋藤凜　小須田莉奈　田沢鈴夏　髙橋まゆ　赤木優里　金神瑠花　笠原あかり　カ　ギョウユウ　高城翔万　**英語学科**　山田佳歩　有澤里穂　粟田えま　東怜未　石田とね　内川惠利加　杉浦萌夏　長手愛奈　林田真由子　朝川翔太　上野優太朗　小笠原里桜　**ドイツ語学科**　河内陽菜乃　城山月花　溝口藍　**フランス語学科**　永井茉奈加　中井香里　滑川理子　**イスパニア語学科**　山崎日花里　小俣逸花　石井日向子　**ロシア語学科**　今井遥香　橋本愛優　山口玲愛　**ポルトガル語学科**　加藤彩香　福原星宙　牧亜矢乃　**総合グローバル学科**　藤本マキシンルイス　北山涼華　柏田彩乃　市橋梨蓉　山田明佳里　大嶋德　今西りか　佐藤夏　三浦実優　籠重渚　田村璃子　山本葉月　**国際教養学科**　小淵めなむ　イマムラ　エミリー　ケイコ　室田なるみ　副田和希　杉山茜　ジョン　ミンジュ　ゴー　ハン　ミン　野村梨咲子　シュシュアナン　志水理沙　岩田夏泉　ソリッド　イザック　**物質生命理工学科**　嶋原知義　上島実祐　佐々木瑛美　カサイ　ハナ　田子愛彩　大谷佑奈　カスマリ　サムエル　タンダング　山川一葉　髙橋わかば　**機能創造理工学科**　土屋陽暉　中村徳希　及川大樹　土橋裕太　杉浦雛姫　山澤隼　青柳航己　臼田裕美　八田悠翔　**情報理工学科**　関森真優　神田悠希　阿久津壮偉　中塚舞子　石原綾佳　後藤由依翔　吉川真衣　小薗江奏星　小田健翔